

2019 年度事業報告について

1 事業概要

2019 年度は公益法人化後 7 年目に当たり、今後のハイパー研の在り方を検討しながら、引き続きこれまでの各種の活動にも取り組んだ。

主な事業としては、以下があげられる。

- ・企業向け人権啓発活動支援事業（情報モラル啓発）（中小企業庁）
- ・情報コミュニティセンター利活用推進（大分県）
- ・大分市情報学習センター指定管理業務
- ・おおいた IT 人材塾や未来の IT 技術者発見事業などを通じた県内の IT 人材の育成

また、以下の活動にも取り組んだ。

- ・共同研究員や賛助会員との連携による教育、防災、観光、農業、医療、介護等の各分野の情報化支援
- ・県下市町村の行政、教育、情報通信関連企業等の関係者と連携して調査研究や情報収集
- ・韓国、タイ、インドネシア、マラウイ、バルト三国（エストニア／ラトビア／リトアニア）など、海外の協力機関との交流や協働

さらに、新たな取り組みとして、最近 AI を活用した様々な技術が急速に進展していることから、「おおいた AI テクノロジーセンター」を設立し、産業等における AI の活用を推進することとしている。

2 法人運営

評議員会、理事会では、経営課題の分析・検討、経営方針の確認、基本財産の運用、役員の交代など、評議員会 4 回、理事会 8 回を開催した。

- ・第 38 回理事会（平成 31 年 4 月 16 日）〈みなし決議〉
- ・第 15 回評議員会（令和元年 5 月 10 日）〈みなし決議〉
- ・第 39 回理事会（令和元年 5 月 21 日）
- ・第 40 回理事会（令和元年 6 月 11 日）
- ・第 16 回評議員会（令和元年 6 月 11 日）
- ・第 41 回理事会（令和元年 7 月 30 日）
- ・第 17 回評議員会（令和元年 8 月 5 日）〈みなし決議〉
- ・第 42 回理事会（令和元年 9 月 4 日）〈みなし決議〉
- ・第 18 回評議員会（令和元年 9 月 24 日）〈みなし決議〉
- ・第 43 回理事会（令和元年 10 月 23 日）
- ・第 44 回理事会（令和 2 年 2 月 4 日）
- ・第 45 回理事会（令和 2 年 3 月 18 日）

3 事業内容

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（認定法）に基づく公益財団法人認定時の事業区分により、以下のとおり事業内容を報告する。

表1に事業一覧を示す。

表1 事業一覧

(単位:円)					
区分	細分	発注元	事業名	事業費	小計
公1	普及啓発 人材育成	国・ 関係機関	企業向け人権啓発活動支援「情報モラル啓発事業」	31,633,110	31,633,110
		大分県	IT人材育成支援事業(おおいだIT人材塾)	2,042,920	16,004,348
			未来のIT技術者発見事業運営委託業務	4,684,997	
			青少年ネット安全安心利用推進事業「中学生・高校生ICTカンファレンス」	2,085,128	
			姫島ITアイランド構想推進交流イベント開催業務	5,361,474	
			令和元年度オープンデータ利活用促進イベント開催業務	1,829,829	
	市町村等	大分市情報学習センター指定管理業務	41,925,823	42,154,158	
	県、市町村及び企業に対する情報化支援等業務	228,335			
	研究発表会	自主事業	ハイパーネットワーク別府湾会議2019開催事業	4,850,000	5,015,000
	その他の研究発表事業	165,000			
地域社会 情報推進 公1計	大分県	地域コミュニティ情報化推進業務	15,725,286	15,725,286	
					110,531,902
公2	大分県	ネット安全教育推進事業 (ネットあんしんセンター、情報モラル出前授業)	3,806,000	3,806,000	
		自主事業	その他の相談対応事業	0	
	公2計				3,806,000
公3	国・ 関係機関	中小企業海外展開支援業務(JICA)	6,005,564	6,005,564	
	大分県	教育情報化ファシリテーション業務	2,616,000	4,300,800	
		教育情報化カンファレンス等運営業務	1,684,800		
	自主事業	その他の研究調査事業	1,603,869	1,603,869	
公3計				11,910,233	
収益	企業	ソーシャル・イノベーションの普及が企業・産業・社会構造 に与える影響についての調査研究	3,516,216	3,516,216	
		ネクストモビリティEXPO2019業務	1,450,842	1,450,842	
		ビジネスデザイン発見&発表会2019大分開催業務	480,147	480,147	
		その他収益事業	59,020	59,020	
	収益事業計				5,506,225
総合計				131,754,360	

* 事業区分

公1：ハイパーネットワーク社会に関する情報の収集・提供・普及啓発、研究発表会等の開催を行う事業

公2：ハイパーネットワーク社会に関する情報の収集及び提供事業

公3：ハイパーネットワーク社会に関する調査及び研究事業

収：収益事業

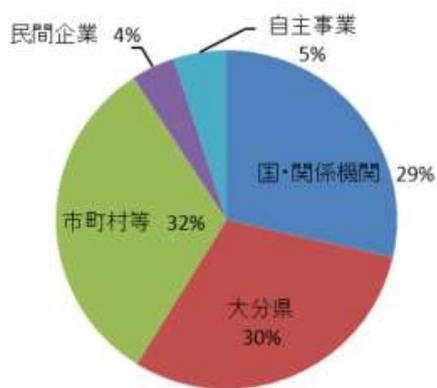
表 2、図 1 に発注者別集計を示す。

図 1 委託等事業発注者別比率

表2 委託等事業発注者別内訳

(単位:円)

発注元	事業費	割合
国・関係機関	37,638,674	29%
大分県	39,836,434	30%
市町村等	42,154,158	32%
民間企業	5,506,225	4%
自主事業等	6,618,869	5%
合計	131,754,360	100%



以下、事業区分別に、事業内容について報告する。

3-1 公1：ハイパーネットワーク社会に関する情報の収集・提供・普及啓発、研究発表会等の開催を行う事業

3-1-1 普及啓発および人材育成

1) 企業向け人権啓発活動支援事業「情報モラル啓発事業」(中小企業庁委託事業)

企業の経営者・管理者や従業員、個人経営者等が、人権にかかわる諸問題を十分に認識し、人権侵害・法令違反を引き起こさないようにするため、人権の尊重および情報モラルの重要性を啓発した。

(1) 令和元年度 セミナー・シンポジウムの開催

この取組は、平成 15 年度から全国各地で 98 回、延べ人数 1 万 4 千人を超える受講者を対象に実施してきたもので、令和元年度は、下記の通り「情報モラルシンポジウム」「情報モラル啓発セミナー」の 2 つを全国 9 箇所ですべて 9 回開催、計 674 人が受講し、企業の情報モラルの向上に寄与した。

① 情報モラル啓発セミナー in 宮城

テーマ：企業に必要な SNS のビジネス利活用方法！誰もが必要なネットの人権侵害・SNS 炎上の対策！

日時：令和元年 9 月 4 日（水）13:30～16:30

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口

(宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 2-15 ソララプラザ 7F)

定員：50 名程度（事前申込数 78 名、当日参加数 72 名）

②情報モラル啓発セミナーin 群馬

テーマ：LINE、Facebook など SNS での個人情報漏えい対策！
これだけは知っておきたい最新情報！あなたも被害者、加害者に！
人権侵害、情報漏えいのリスク！
日 時：令和元年 9 月 26 日（木）14:30～16:30
場 所：前橋さくらホテル 紅雲（前橋市本町 2 丁目 16-1）
定 員：50 名程度（事前申込数 51 名、当日参加数 52 名）

③情報モラル啓発セミナーin 福井

テーマ：「組織に求められる情報セキュリティ対策」
日 時：令和元年 10 月 9 日（水）13:30～16:30
場 所：福井市地域交流プラザ 6F（福井県福井市手寄 1 丁目 4-1）
定 員：50 名程度（事前申込数 53 名、当日参加数 42 名）

④情報モラル啓発セミナーin 京都

テーマ：「人類と AI の近未来」
日 時：令和元年 11 月 6 日（水）15:00～17:15
場 所：京都リサーチパーク 東地区 1 号館 4 階 サイエンスホール
（京都市下京区中堂寺南町 134）
定 員：80 名程度（事前申込数 101 名、当日参加数 96 名）

⑤情報モラル啓発セミナーin 三重

テーマ：「ソーシャルメディアに潜むリスクと対策～組織で考える情報モラル～」
日 時：令和元年 11 月 27 日（水）14:30～16:30
場 所：プラザ洞津（三重県津市新町 1 丁目 6-28）
定 員：50 名程度（事前申込数 55 名、当日参加数 52 名）

⑥情報モラル啓発セミナーin 香川

テーマ：「被災経験から学ぶ！災害時の情報発信・危機管理」
日 時：令和元年 12 月 10 日（火）13:30～16:30
場 所：高松商工会議所 501 号室（香川県高松市 2 丁目 22）
定 員：50 名程度（事前申込数 64 名、当日参加数 64 名）

⑦情報モラル啓発セミナーin 鳥取

テーマ：「組織に求められる情報セキュリティ対策」
日 時：令和 2 年 1 月 16 日（木）13:30～16:30
場 所：鳥取商工会議所 大会議室（鳥取県鳥取市本町 3-201）
定 員：50 名程度（事前申込数 67 名、当日参加数 69 名）

⑧情報モラル啓発セミナーin 沖縄

テーマ：「中小企業における SNS マーケティング～無料で始めるロコミビジネス～」
「ネットの人権侵害・SNS の炎上と利活用～被害体験を通して」
日 時：令和 2 年 1 月 24 日（金）13:30～16:30
場 所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘（沖縄県那覇市松尾 1 丁目 6 番 1 号）
定 員：50 名程度（事前申込数 59 名、当日参加数 51 名）

⑨情報モラルシンポジウム in 福岡

テーマ：『人工知能「AI」が世界に、あなたにもたらす光は？影は？』

日時：令和2年2月14日（金）13:30～17:30

場所：レソラホール（福岡県福岡市中央区天神2丁目5-55 レソラ天神5階）

定員：150名程度（事前申込数194名、当日参加数176名）

(2) その他

情報モラル啓発セミナーおよび情報モラルシンポジウムの開催のみでは、時間的・場所的制約等により、参加できない企業人がいるため、そうした方を対象に、効果的に「人権尊重のための情報モラル」啓発を行うことを目指し、下記のコンテンツをウェブサイトより、公開・配信した。

[情報モラル啓発セミナー・シンポジウムの開催報告サイトの制作・公開]

情報モラル啓発セミナー・情報モラルシンポジウムについて、アンケートを集計した開催報告書（PDFデータ）の公開に加えて、セミナーやシンポジウムの様子がわかるように写真を盛り込んだ開催報告サイトを制作・公開した。

<公開 URL>

- ①情報モラル啓発セミナー in 宮城 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_miyagi
- ②情報モラル啓発セミナー in 群馬 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_gunma
- ③情報モラル啓発セミナー in 福井 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_fukui
- ④情報モラル啓発セミナー in 京都 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_kyoto
- ⑤情報モラル啓発セミナー in 三重 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_mie
- ⑥情報モラル啓発セミナー in 香川 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_kagawa
- ⑦情報モラル啓発セミナー in 鳥取 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_tottori
- ⑧情報モラル啓発セミナー in 沖縄 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_okinawa
- ⑨情報モラルシンポジウム in 福岡 https://www.j-moral.go.jp/rlhokoku_fukuoka

サイトでは、講演や質疑応答の要約も盛り込み、講演資料も可能な限り公開することで、セミナーへの参加が叶わなかった対象者の方々にも普及啓発し、また自己学習していただくことを目指した。

[AIの適切・安全な利活用事例集の制作・配信]

専門的知見を有しない一般的な企業者にも分かりやすく、中小企業関係者がAIを利活用する際に参考になるように、中小企業におけるAI利活用の好事例を5事例、AI利活用時の人権・倫理上のトラブルや取り扱いに配慮すべき事例を5事例制作し、Web上で配信することとした。この取組により、セミナーに参加できなかった方々に公開している講演資料と併せて、Webコンテンツの事例集をダウンロードし、印刷、閲覧いただくと、今年度の事業内容をより深く、具体的に理解頂くことができ、普及啓発及び自己学習、関係者への展開に役立ててもらうことが可能となる。

<公開 URL>

・制作物紹介

<https://www.j-moral.go.jp/introduction>

・AIの利活用に関する好事例、不適切事例の紹介

https://www.j-moral.go.jp/document/2019report/AI_jirei.pdf

2) IT人材育成支援事業「おおいた IT人材塾」開催事業（大分県委託事業）

県内 IT 企業の技術力・競争力を強化して、県内 IT 技術者の連携力強化による資質向上を計るため、主に IT 業界において専門的かつ先進的な知識を有する講師を招き、プレゼンテーション研修やグループワーク研修などのプログラムも取り入れた講演・セミナーを開催し、技術者間連携の促進やコミュニケーション能力の向上を図った。また、講師も参加する交流の場を提供することにより、塾生同士の垣根を越えたコミュニティを構築するとともに県内 IT 技術者の資質向上に寄与した。

①おおいた IT人材塾の開催

○第1回 グループワーク研修

- ・日時：令和元年7月20日（土）13:00～17:00
- ・場所：大分銀行宗麟館 5F 会議室
- ・テーマ：「第1回チームをうまく機能させるためのチーム運営のコツ」
- ・講師：平山猛 氏（株式会社トライログ 代表取締役）
- ・受講者32名（参加：32名、ビデオ受講：0名）

○第2回 ファシリテーション研修

- ・日時：令和元年8月17日（土）13:00～17:00
- ・場所：九州電力株式会社 大分支社（本館2階 大ホール）
- ・テーマ：「会議を円滑に進めるためのファシリテーション」
- ・講師：平山猛 氏（株式会社トライログ 代表取締役）
- ・受講者33名（参加：31名、ビデオ受講：2名）

○第3回 IT研修

- ・日時：令和元年9月7日（土）13:00～17:15
- ・場所：J:COM ホルトホール大分 201・202
- ・テーマ：「AI時代のデータ活用とその先の社会」
- ・講師：安部 純一 氏（ジャパニクス株式会社 東京支社
データ活用コンサルタント（富士通公認））
- ・テーマ：「RPAについて」
- ・講師：二宮 綾子 氏
- ・講師：株式会社オルゴ 営業グループ
- ・受講者31名（参加：31名、ビデオ受講：0名）

○第4回 アイデアソン

- ・日時：令和元年10月5日（土）13:00～17:00
- ・場所：九州電力株式会社 大分支社（本館2階 大ホール）
- ・テーマ：「オープンデータを使ったアイデアソン」
- ・講師：牛島清豪 氏（内閣官房オープンデータ伝道師、
総務省地域情報化アドバイザー、
株式会社ローカルメディアラボ 代表取締役）
- ・受講者31名（参加：29名、ビデオ受講2名）

○第5回 ハッカソン

- ・日時：令和元年10月26日（土）10:00～17:00
- ・場所：大分銀行宗麟館 5F 会議室
- ・講師：牛島清豪 氏（内閣官房オープンデータ伝道師、
総務省地域情報化アドバイザー、
株式会社ローカルメディアラボ 代表取締役）
- ・受講者30名（参加：25名、ビデオ受講5名）

- 第6回 ハッカソン
 - ・日時：令和元年11月16日（土）13:00～17:30
 - ・場所：九州電力株式会社 大分支社（本館2階 大ホール）
 - ・講師：牛島清豪 氏（内閣官房オープンデータ伝道師、
総務省地域情報化アドバイザー、
株式会社ローカルメディアラボ 代表取締役）
 - ・受講者29名（参加：26名、ビデオ受講：3名）
- 第7回 トップレベルセミナー
 - ・日時：令和2年1月25日（土）13:30～16:00
 - ・場所：ソフィアホール
（大分市東春日町17番20号 大分第2ソフィアプラザビル2F）
 - ・テーマ：「我等、遠方より来たりて、遠方へ去る!!!」
 - ・講師：村上 憲郎氏（株式会社 村上憲郎事務所 代表取締役、
（公財）ハイパーネットワーク社会研究所 理事長）
 - ・人材塾生によるアバター実証実験の紹介
 - ・発表：南 孝一郎 氏 株式会社千代田
 - ・受講者28名（参加：27名、ビデオ受講：1名）
- 卒塾式
 - ・卒塾生30名（皆勤賞は、18名）、卒塾率は91%。

3) 未来のIT技術者発見事業委託業務（大分県委託事業）

近年の情報通信技術の急速な発展に伴い、パソコンや携帯電話などの従来からの情報機器だけでなく、家電や自動車、医療機器など多種多様なモノがインターネットに繋がる「IoT（Internet of Things）」、すなわち「モノのインターネット」の活用が注目され、普及に向けた取り組みが加速している。また、人工知能やロボット等、新たな技術の発展が目覚ましい。

そのような中、急激に増加する各種データを分析・活用し、IT技術を駆使した新商品・新サービスを創出できる資質を持ったIT技術者の存在は、今後益々重要なものとなることが予想される。

そこで、本業務では若く感性の育つ時期に、少しでも多くの子どもたちにプログラミングに触れる機会を与え、プログラミングに対し興味を抱く子どもを増やしていくとともに、高校生に対しては、交流の場を提供し、共同でアイデアを出し合い、形にする作業に取り組むことで、モチベーションの向上に繋げ、将来、イノベーションを創出することができる次世代IT人材の育成につながることを目的とする。

①小中学生向けプログラミング教室の開催

大分県内の小中学生を対象に、プログラミング教室を以下の5会場で開催した。

○対象者

大分県内の小学生（4,5,6年生）および中学生、各会場20名程度

○開催時期・場所

【日田会場】

日時：令和元年7月15日（月・祝）13時～16時

場所：日田市複合文化施設A0SE（アオーゼ）会議室2～3（日田市上城内町2番6号）

【由布会場】

日時：令和元年7月28日（日）13時～16時

場所：由布院小学校コミュニティルーム（由布市湯布院町川上3758）

【宇佐会場】

日時：令和元年 10 月 13 日（日）13 時～16 時

場所：宇佐市勤労者総合福祉センター [さんさん館] 会議室 2 階
(宇佐市四日市 391-10)

【豊後大野会場】

日時：令和元年 12 月 21 日（土）13 時～16 時

場所：豊後大野市総合文化センター2 階第 1～2 会議室（豊後大野市三重町内田 878）

【杵築会場】

日時：令和 2 年 1 月 13 日（月・祝）13 時～16 時

場所：きつき生涯学習館（杵築中央公民館）2 階 第 2～3 研修室
(杵築市大字杵築 126 番地 1)

○講師

<日田、豊後大野、杵築会場>

公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 主幹研究員 吉良 智晃

<由布会場>

こども ゆっくり ICTルーム かてて 代表 阿南英治

<宇佐会場>

大分大学大学院 教育学研究科学校教育専攻修士 1 年 古本 拓巳

○サポーター

今回、初心者を対象とした講座のため、高校生や大学生、地元の方にサポーターとして協力をいただいた。

②高校生ミライハック

高校生たちの IT や IoT に関する知識や関心を高め、未来の IT 技術者を育成するきっかけの場となることを目的に、「高校生ミライハック」を実施した。「IoT やデータを使って、自分の街を楽しく！」をテーマに、高校生たちがグループをつくり、アイデアを形にするワークショップとした。各グループには、企業の IT 技術者や大学生がアドバイザーとして参加し、高校生たちが ICT の知識や技術を学べる場となるよう取組んだ。

○全 3 日間のプログラム

期日：令和元年 9 月 7 日（土）、14 日（土）、15 日（日）（全 3 回）

時間：10 時～17 時

場所：大分市情報学習センター（大分市大石町 1 丁目 3 組）

○参加者

対象は大分県内の全ての高校生、高等専門学校生（学校対抗のチーム出場）

5 校 8 チーム 30 人（内訳：1 年生 18 人、2 年生 6 人、3 年生 6 人）

○メイン講師

牛島 清豪 氏（株式会社ローカルメディアラボ 代表取締役）

○メンター（ファシリテーター）、技術アドバイザー、サポーター

県内 IT 企業、県内 IT 技術者、専門学校生、大学生など

③IT 業界紹介出前授業の開催

大分県内の高校生を対象に、以下のとおり IT 業界紹介出前授業を開催した。

○授業内容

ハイパーネットワーク社会研究所研究員による IT 業界の概要の紹介及び県内 IT 関連企業による事例・自社の取組みを紹介。

○対象者

大分県内の高校生（1 年生）

○開催時期・開催校

【日本文理大学附属高等学校】

日時：令和元年 9 月 17 日（火）13 時 10 分～14 時 00 分

場所：日本文理大学附属高等学校（佐伯市鶴谷町 2-1-10）

対象：情報コース 53 名（1 年生 19 名、2 年生 34 名）

【大分県立宇佐産業科学高等学校】

日時：令和元年 10 月 21 日（月）13 時 30 分～14 時 20 分

場所：宇佐産業科学高等学校（宇佐市四日市 292）

対象：ビジネス管理科 2 年生（27 名）

【大分国際情報高等学校】

日時：令和元年 12 月 13 日（金）13 時 55 分～14 時 45 分

場所：大分国際情報高等学校 実習棟 2F（大分市新貝 11 番 40 号）

対象：2 学年全員（76 名）

【大分県立大分工業高等学校】

日時：令和 2 年 1 月 24 日（金）13 時 25 分～14 時 15 分

場所：大分工業高等学校 管理棟 3F 大会議室（大分市芳河原台 12-1）

対象：電気科 1 年生（35 名）

【大分県立中津東高等学校】

日時：令和 2 年 2 月 6 日（木）13 時 15 分～14 時 05 分

場所：中津東高等学校 商業棟 2 階 総合実践室（中津市上如水 145 番地の 3）

対象：ビジネス会計科 1 年生（38 名）

4) 青少年ネット安全安心利用推進事業「中学生・高校生 ICT カンファレンス」（大分県委託事業）

青少年の安全・安心なインターネット利用を促進することを目的に、中学生・高校生がネットやスマホの利用について、主体的に議論（熟議）する場として開催した。今年度から中学生が参加できる企画とし、大分県内の中学生・高校生 57 名（高等学校 16 校 48 名、中学校 3 校 9 名）が参加し、「人はなぜ SNS を使うのか？～改めて考える SNS の使い方」をテーマに、生徒たちがグループに分かれて学校の垣根を越えた活発な議論と発表を行った。グループの議論を促進する役目となるファシリテータや書記役として、大分県内の大学生・専門学校生を育成し参加させる中で、年齢を越えた青少年のコミュニケーションまた中高校生のインターネット利用に関する現状を把握するとともに、中高校生の考え方や本音を聞き、問題点や対策を発見、今後の取組みに反映させるものとした。

○中学生・高校生 ICT カンファレンス 2019 in 大分

テーマ：人はなぜ SNS を使うのか？～改めて考える SNS の使い方

日 時：令和元年 8 月 25 日（日）10 時～16 時

会 場：J:COM ホルトホール大分 3 階 大会議室

参加：57名（高等学校16校48名、中学校3校9名）

大分県立竹田高等学校、大分東明高等学校、大分県立大分豊府高等学校、大分高等学校、大分国際情報高等学校、大分県立国東高等学校、大分県立佐伯鶴城高等学校、東九州龍谷高等学校、大分県立中津南高等学校、大分県立別府鶴見丘高等学校、大分県立大分工業高等学校、大分県立大分舞鶴高等学校、別府溝部学園高等学校、大分県立臼杵高等学校、大分県立大分鶴崎高等学校、大分県立中津北高等学校、大分県立大分豊府中学校、由布市立挾間中学校、大分市立植田南中学校（順不同）

※学生ファシリテータ・書記、サポーター（IVY 総合技術工学院、大分大学、日本文理大学）、見学者（教員・教育関係者・その他）合計 65名

※主催：大分県、(公財)ハイパーネットワーク社会研究所、安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報研究会、(一社)モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連合会

5) 姫島 IT アイランド構想推進交流イベント開催業務（大分県委託事業）

本事業は、ITアイランド構想を掲げる姫島村において、「①県内外のIT企業向けの交流イベント」及び「②村内外の親子を対象としたプログラミングキャンプ」を開催し、県外のIT企業や人材に対して、姫島村の魅力をPRするとともに、WEBメディアやSNS、ブログ等を通じ、県外のIT企業や人材等に対して効果的に広報・周知することで、「ITの島」としてのブランディングを図ることを目的とする。

○親子交流イベントの開催（親子プログラミングキャンプ）

親子参加型のプログラミング体験キャンプを姫島で行い、その取り組みの中で、姫島村外の親子と村内の親子の交流を深めるとともに、姫島村の魅力を伝える。

日時：令和2年2月8日（土）13時～ 9日（日）12時（1泊2日）

会場：離島センター「やはず」（大分県東国東郡姫島村 1569-1）

参加者：大分県内の小学校5,6年生とその保護者 計97名

（姫島小の児童26名、村外の児童18名、保護者、サポーター、事務局関係者53名）

○企業交流イベントの開催（AI=愛のある姫島ワークショップ）

【プレイベント】

姫島でのイベント実施の前に、東京及び福岡でプレイベントを開催することで、企業誘致につながる集客活動を実施。

<姫島×東京ナイト>

日時：令和2年2月12日（水）13:30（第1部）～18:00（第2部）～20:00

会場：デジタルビジネス・イノベーションセンター（DBIC）

（〒103-0027 東京都中央区日本橋1-16-3 日本橋木村ビル4F）

参加者：68名

<姫島×福岡ナイト>

日時：令和2年2月14日（金）18:00～20:00

場所：レソラホール（〒810-0001 福岡市中央区天神2-5-55 レソラ天神5F）

参加者：33名

【AI=愛のある姫島ワークショップ】

全国の企業を対象に、「GPU などによるエッジ AI」、「ディープラーニング」など、最新の AI 技術とその応用をテーマにとりあげ、技術とビジネスの両面の視点から、学習・体

験型の交流プログラムを実施する。参加者の知識・経験・希望により、AI によるビジネスプランの制作を中心とした A コースと、AI 技術の応用実装を中心とした B コースの 2 つに分ける。

日 時：令和 2 年 3 月 3 日（火）13 時～4 日（水）13 時

会 場：姫島 IT アイランドセンター（コワーキングスペース）

定 員：50 名

⇒上記の日程にて開催を予定していたが、世界中を巻き込む未曾有の事態、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染症拡大の防止のため、参加者や住民の安全を考慮し、2 月 26 日、急な案内となり参加予定者に迷惑をかけることとなったが、イベントの中止を決定した。

6) 令和元年度オープンデータ利活用促進イベント開催業務（大分県委託事業）

オープンデータとは、国や地方公共団体、事業者が保有するデータを、誰もがインターネット等を通じて容易に利用できるよう公開する取組のことであり、地方公共団体においては、住民や企業が行政データ等を活用することにより、地域が抱える課題の解決につながることを期待されている。

大分県では、オープンデータカタログサイトを構築するなどオープンデータを利活用しやすい環境の整備に努めている。

一方、オープンデータの利活用を促進するためには、県民や県内企業に活用してもらう必要があるが、オープンデータが浸透しているとは言いがたい状況にある。そこで本業務では、県民や県内企業に対し、オープンデータへの理解・関心を高め、利活用を促すためのイベントを開催することにより、オープンデータの利活用促進を図るとともに、今後の大分県内の公開データ数の拡充に繋げることを目的とする。

○オープンデータ利活用促進セミナー&アイデアソン

・日時：令和 2 年 3 月 26 日（木） 13:00～17:30

・場所：azito コレジオ大分 2F（大分市金池南 1-5-1）

・講師：オープンデータ伝道師

東 富彦 氏 （公財）九州先端科学技術研究所 BODIK 担当ディレクター
総務省地域情報化アドバイザー

牛島清豪 氏 （株）ローカルメディアラボ 代表取締役
総務省地域情報化アドバイザー

①13:00～15:00 講義・説明（Web ウェビナー）

オープンデータとは？

オープンデータを活用した地域や企業で役立つ事例を紹介

オープンデータの探し方や使い方を紹介

オープンデータを使ったアイデアソンのやり方や注意点を説明

②15:00～16:30 アイデアソン（会場+Web Google ハングアウト）

身近な地域や企業などで抱える問題、または新しく生み出す価値を提起し、それに対するオープンデータを使った対応アイデアを創造

③16:30～17:00 会場発表・審査（Web Google ハングアウトでライブ配信）

会場チームのアイデア発表。個別参加のアイデアと審査員で審査

④17:00～17:30 優秀アイデア発表・総評（Web ウェビナー）

審査の結果、優秀なアイデアを発表。（最優秀賞、優秀賞 x 2）全体の総評

・参加者 30 名（会場参加者：5 名、Web 参加者：25 名）

7) 大分市情報学習センター指定管理業務（大分市委託事業）

大分市情報学習センターの指定管理者として、市民の皆様が安心・安全に、快適な生活をおくることができ、さらに学習・文化活動に積極的にいそしむことができるために必要な情報活用を支援する場を提供した。主な業務は、部屋貸、教室開催、IT ボランティア育成支援、機材・教材貸出、施設・設備の維持管理など。

①平成 31 年度取組全体（ ）内は前年度

- ・センター利用者数 39,410 人(36,160 人)
- ・教室受講者数 5,140 人(4,344 人)
- ・センター外の情報モラル等講習会 9,561 人(5,544 人)
- ・IT ボランティアのべ活動会員数 4,721 人(4,455 人)
- ・まなびのガイド閲覧数 141,121 件(132,265 件)

②センター主催教室

- ・教室種類 90 種類 実施コマ数 682 コマ/年
- ・年間受講者の多い講座（上位 20 教室）

順位	グループ	講師名	受講者数 (人)
1	プログラミング系	プログラミング道場	995
2	プログラミング系	小 1～3 対象 親子のアーテックロボ入門	132
3	基礎系	はじめてのパソコン操作入門	85
4	プログラミング系	放課後プログラミング	84
5	オフィス系	Excel 初級	76
6	プログラミング系	親子の Scratch プログラミング入門	69
7	座学系	(講義) 情報と技術	69
8	オフィス系	女性のための Word 初級	68
9	オフィス系	女性のための Excel 初級	67
10	オフィス系	Word 初級	60
11	オフィス系	Excel 中級	58
12	プログラミング系	小 4～6 対象 親子の LEGO 入門	57
14	オフィス系	働く人のための夜間のための Excel 初級	53

15	オフィス系	はじめての Word	53
16	プログラミング系	小 1～3 対象親子のはじめてのアーテックロボ	52
17	プログラミング系	小 1～3 対象 親子のアーテックロボ応用	50
18	基礎系	キーボード入力練習	50
19	プログラミング系	小 4～6 対象 親子のはじめての scratch	47
20	プログラミング系	小 1～3 対象 親子の scratch 入門	46

③情報モラル講習会 ネット安心安全教室（出前講習会） 参加人数 計 6,997 人

実施日	実施団体	実施対象	受講者数 (人)
6月11日(水)	大分市保健所保健予防課管理 担当班	難病訪問相談員、患者 家族世話人	40
6月28日(金)	坂ノ市中学校	生徒、教職員	700
7月1日(月)	大分市立宗方小学校	6年生、保護者	135
7月2日(火)	大分市立田尻小学校	小5、保護者	150
7月4日(木)	南大分小学校	6年生	200
7月5日(金)	大分市立大道小学校	5,6年生、保護者	250
7月6日(土)	高田小学校 PTA	保護者、児童	42
7月8日(月)	東大分小学校	5,6年生	156
7月9日(火)	大分市立明野中学校	1年生、保護者	450
7月10日(水)	鶴崎中学校 PTA	保護者	90
7月11日(木)	大分市立植田東中学校	1,2,3年生	485
7月12日(金)	植田中学校	保護者・教職員	70
7月13日(土)	東植田校区青少年協議会	小保護者	90
7月16日(火)	大分市立 川添小学校	5,6年生	63
7月18日(木)	大分市立戸次中学校	1,2,3年生	230
8月8日(木)	旭町児童館	小学生(中・高年)	22

8月23日(金)	旭文化センター	一般	10
9月24日(火)	旭文化センター	一般	2
10月4日(金)	大分市立別保小学校	5,6年生	350
10月12日(土)	大分県立芸術文化短期大学	一般	2
10月19日(土)	大分県立芸術文化短期大学	一般	2
10月25日(金)	大分市立別保小学校	4年生	180
10月28日(月)	大分市立滝尾中学校	1,2,3年生	950
10月31日(木)	大分市立森岡小学校	保護者	7
11月1日(金)	大分市立南大分小学校	5年生	170
11月8日(金)	大分市立寒田小学校	5,6年生	130
11月26日(火)	大分市立高田小学校	5,6年生、保護者	200
11月28日(木)	大分市立神崎小学校	5,6年生、保護者	25
12月2日(月)	大分市立豊府小学校	6年生、保護者	190
12月3日(火)	大分市立丹生小学校	4,5,6年生、保護者	140
12月6日(金)	大分市立八幡小学校	5,6年生、保護者	50
12月11日(水)	大分市立植田中学校	1,2,3年生	440
12月13日(金)	大分市立王子中学校	保護者、生徒	303
12月20日(金)	賀来小中学校	小学5～中学3年生	300
1月10日(金)	旭文化センター	一般	3
1月31日(木)	野津原中学校	中学1,2,3年生	70
2月14日(金)	神崎小中学校	小学5,6年生	54
2月25日(月)	下郡小学校	5年生、保護者	246

④市民向けイベントの実施

・情学市民フェスタ	7月28日開催	1,086人参加
・情学プログラミングフェスタ	10月27日開催	841人参加
・情学クリスマスフェスタ	12月22日開催	1,287人参加

7) 県、市町村等に対する情報化支援等業務（県市町村等委託事業）

さまざまな団体に対する各種研修の支援を行い、情報モラルや情報セキュリティの向上に寄与するとともに、SNS等のサービスに関する情報提供を行った。

- ・大分少年鑑別所
- ・大分療育センター
- ・大分市役所
- ・日田市教育委員会
- ・大分県国民健康保険団体連合会
- ・竹田市人権学習 他。

3-1-2 研究発表の実施

1) ハイパーネットワーク別府湾会議 2019 開催

（ハイパーネットワーク別府湾会議実行委員会）

隔年で実施している「ハイパーネットワーク別府湾会議」を下記の通り実施した。

1. 開催趣旨

少子高齢化・人口減社会を迎え、地域の産業、社会の振興を図るためには、新たな発想、イノベーションが必要である。こうした課題を展望し、企業・団体、ユーザ、行政、研究者など多様なステークホルダーが参加して、地域社会における新たなサービスやイノベーションのデザインを考えるワークショップを隔年で開催している。

今回は、5GやGPU、人工知能（AI）、量子コンピューターといった基盤技術から自動運転、ロボット、ドローン、アバターなどの具体的な機器展開が目前に控えており、他方、急速な人口減少に直面する地方において生ずる様々な課題をどうやって克服していこうとするのかを多様な立場から議論する。

2. 開催概要

- | | |
|---------|--|
| (1) テーマ | 「先端技術を活用した地域課題への対応と事業創生」
～AI、IoT、GPUの活用を通して創造する未来～ |
| (2) 日時 | 令和元年12月18日（水）13:30～12月19日（木）12:00 |
| (3) 会場 | 別府国際コンベンションセンター（大分県別府市山の手12番1号） |
| (4) 参加者 | 延べ325名（スタッフ、講師を含む） |
| (5) 対象 | 民間企業、自治体関係者、教育関係者、高校生・専門学校生等 |
| (6) 主催 | ハイパーネットワーク別府湾会議実行委員会
（大分県、西日本電信電話株式会社大分支店、日本電気株式会社、
富士通株式会社、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所） |
| (7) 協賛 | 株式会社オーイーシー、FIG株式会社、株式会社デンケン |
| (9) 後援 | 総務省、経済産業省、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 |

3. プログラム

12月18日（水）

オープニング 13:30～13:40 ◆ 挨拶 大分県知事 広瀬 勝貞 氏

セッション1 13:40～15:15

1. 「eMobility and it's benefits for our global society」
セグウェイ株式会社 事業成長ディレクター ジャックギレン 氏
2. 「IoT、ビッグデータ、人工知能、が切り拓く、第4次産業革命」
公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所 理事長 村上 憲郎

3. おおいた AI テクノロジーセンターの設立宣言

公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所 所長 青木 栄二

4. 「ディープラーニングの社会実装を加速する GPU のエッジソリューション」

NVIDIA エンタープライズ事業部 事業部長 井崎 武士 氏

休憩 15:15～15:30

セッション 2 15:30～17:40

5. 「ディープラーニング活用人材育成による AI ビジネス革新」

(一社) 日本ディープラーニング協会マーケティングディレクター 林 憲一 氏

6. 事例紹介 AI・エッジコンピューティング各事例の成功と課題について

- ・ 日経ディープラーニングビジネス活用アワード 2019 年 大賞受賞プロジェクト

「AI 技術を持たない食品メーカーにおける AI 活用によるイノベーション」

キユーピー株式会社 未来技術推進担当部長 次世代技術推進チーム荻野 武氏

- ・ 「地域の人々のニーズに合った AI 技術開発の重要性とその拡大について」

ステラプラス株式会社 代表取締役 大松 重尚 氏

- ・ 「2020 に向け、急速に進展しているエッジ AI のメリットと可能性」

株式会社入鹿山未来創造研究所 代表取締役所長 入鹿山 剛堂 氏

7. 参加者ディスカッション

コーディネーター：多摩大学情報社会学研究所 教授・主任研究員 会津 泉 氏

意見交換会 18:00～20:00

12 月 19 日 木曜日

ワークショップ 09:00～12:00

以下のワークショップを 3 室に分かれて開催後、最後に発表を実施。

■ワークショップ 1 「Jetson Nano で学ぶディープラーニング入門ハンズオン」

講師：NVIDIA テクニカルマーケティングマネージャー 橘 幸彦 氏

■ワークショップ 2 「Raspberry Pi でエッジコンピューティング」

講師：Japanese Raspberry Pi Users Group 主宰 太田 昌文 氏

■ワークショップ 3 「エッジ AI・アイデアソン」

コーディネーター：多摩大学情報社会学研究所 教授・主任研究員 会津 泉 氏

レクチャー講師：ジャパニアス株式会社データ活用コンサルタント 安部 純一 氏

メンター：NVIDIA NTT シニアグローバルアカウントマネージャー 田上 英昭 氏

3-1-3 地域社会の情報推進

1) 地域コミュニティ情報化推進業務（大分県委託事業）

大分県民が IT によるゆとりと豊かさを実感できる「情報コミュニティ」を構築するためには、県民の IT リテラシーの向上が不可欠である。そこで、IT リテラシーや情報モラルの向上のための情報拠点として、「情報コミュニティセンター」を運営するとともに、IT の最新動向をテーマにしたハイパーフォーラムの開催等の普及啓発活動を行い、県民の情報リテラシーの向上に寄与することができた。

①情報コミュニティセンター運営管理

県内の NPO 団体等が情報コミュニティセンターを利用することにより、また NPO 団体のコミュニティを通して、県民全体の IT リテラシーの向上、情報モラル、情報セキュリティの習得に繋がるよう大分県と連絡をとりながら、以下に掲げる業務を行った。

○コミュニティセンター設備利用者との連絡調整、指導、助言及び利用にかかる技術的支援

○コミュニティセンター設備使用に係るユーザ対応業務

②施設の管理

大分県民に広く開放し、パソコンを用いた研修を行うことのできる情報コミュニティールの運営管理及びブロードバンドネットワークが利用できる新たな情報機器やインターネットサービスの体験が可能なコーナーの設置、運営管理を行った。

- ・利用件数 309 件（延べ利用者 3,426 人）

③先進的情報普及活動

大分県民や企業に向けて、情報化関連の最新情報の提供や行政施策の PR を実施した。

また、高度情報化社会に対応しうる県民や企業の育成を図るために、下記のとおり開催した。

○第 81 回ハイパーフォーラム

- ・テーマ：「AI 時代に必要とされる GPU テクノロジー」
- ・日時 令和元年 9 月 13 日（金）14:00～17:00
- ・場所 J:COM ホルトホール大分 302・303 会議室

- ①【開会あいさつ】大分県商工観光労働部 情報政策課 課長 安藤 善之
- ②【講演 1】「ディープラーニングからレンダリング、VDI まで GPU の活用事例ご紹介」
エヌビディア合同会社 エンタプライズ事業部
シニアグローバルアカウントマネージャ 田上 英昭 氏
- ③【講演 2】「地域における IoT サービスとの多様な AI システムの展開 GPU による深層学習開発で見えてきた様々な創造と可能性」
ステラプラス株式会社 CEO 大松 重尚 氏
- ④【まとめ&閉会挨拶】「GPU と AI ～大分における今後の活動に向けて」
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 所長 青木 栄二
- ⑤参加人数：110 名

3-2 公2：ハイパーネットワーク社会に関する情報の収集及び提供事業

1) ネット安全教育推進事業（大分県委託事業）

児童・生徒による SNS の利用に伴い、ネット上での誹謗中傷や個人情報の漏えいなどのネットトラブルが起きている。子どもおよび教員からの相談に直接対応できる窓口を設け、トラブル解決を支援することで、子どもたちが安全・安心にインターネットが利用できるようにする。あわせて、子どもたちのネットトラブルに対する今後の指導に役立つため、教育関係者を対象にしたセミナーを開催するとともに、県内の小学校から高等学校まで教員に事例レポートを配布する。また、専門的な知識をもった講師 を学校現場に派遣し、児童・生徒に対して、インターネットや SNS などの安全な扱い方など、情報モラルに関する出前授業を通して、家庭・地域・学校における消費者教育の推進を図る。

①子どものためのネットあんしんセンター

- ・対応時間：13:30-17:30（月曜日、水曜日、金曜日）
- ・対応方法：電話、LINE、メール、来客対応
- ・対応件数：193 件（令和元年 7 月 1 日～令和 2 年 3 月 6 日時点）

②大分県情報モラル教育セミナー開催

○大分県情報モラル教育セミナー

- ・日 時：令和元年 10 月 8 日（火） 13:30～16:15
- ・会 場：大分県教育センター（3 階講堂）

- ・対象：89名（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の生徒指導担当、情報担当、そのほか希望した教員）

③情報モラル出前授業（大分県委託事業）

- ・授業実施：令和元年6月11日（火）～令和2年2月7日（金）
- ・場 所：講習会形式で行える学校内施設（体育館等）
- ・対 象：①小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒
②保護者
- ・実施回数：36回 受講人数 5,394人

3-3 公3：ハイパーネットワーク社会に関する調査及び研究事業

1) 中小企業海外展開支援事業－普及・実証事業－（JICA 委託事業）

事業名称：「タイ国介護支援ロボット「みまもりシステム」活用による地域福祉・保健医療の向上に向けた普及・実証事業」

調査期間：平成29年12月～令和元年11月

事業概要：本事業は、大分県の株式会社エイビスが JICA に採択されて実施するもので、当研究所はアドバイザーとして参画する。具体的な実施事項としては、SamutSakhon 県の3つの中核病院と在宅介護世帯に「みまもりシステム」を導入し、看護・介護現場での負担軽減や事故防止において効果的であることを実証するとともに、LTC 推進への貢献及びタイ国内での普及に向けた事業展開計画を策定することを支援するものである。

2) 中小企業海外展開支援事業－普及・実証事業－（JICA 委託事業）

事業名称：「インドネシア国プレキャスト雨水貯留施設導入に係る普及・実証事業」

調査期間：平成30年6月～令和2年1月

事業概要：本事業は、福岡県の株式会社ヤマウが JICA に採択されて実施するもので、当研究所はアドバイザーとして参画する。具体的には、インドネシア南スラウェシ州マカッサル市において、雨季の頻繁な道路冠水や住宅浸水等の対策として、プレキャスト雨水貯留施設の有用性及び優位性が実証するとともに、プレキャスト雨水貯留施設の普及を支援するものである。

3) 教育情報化ファシリテーション業務（大分県委託事業）

大分県では教育の情報化を進めるべく、学校現場における情報化の実態を調査し、かつ課題を洗い出し、具体的な改善策を提示するための「大分県教育情報化推進計画基本構想書」を平成23年3月に作成した。これを踏まえ、平成23年度から、情報教育の進歩や情報モラルへの配慮を念頭に置き、大分県教育全体の情報環境を再構築し、より良い環境をつくるために、教育情報化の推進を目的とした「大分教育情報化ファシリテーション業務」を受け、取組みを進めてきた。本年度の主な取組は以下のとおりである。

①大分県教育情報化推進プランの改定

- ・大分県教育情報化推進計画「ICT 利活用推進プラン 2020」の策定

②大分県情報化推進委員会・作業部会の企画・運営（年10回）

③教育への ICT 活用および情報モラル教育推進支援

4) 教育情報化カンファレンス等運營業務（大分県委託事業）

情報社会の進展が目覚ましい今日、変化の激しい時代を生き抜く子どもたちには、生きる力として情報活用能力が求められている。

大分県教育委員会は平成24年度から、「未来に生きる子どもたちに必要な情報活用能力を考える」をテーマに、教育情報化カンファレンスを年に1回開催している。県内外の教職員や教育委員会、企業、保護者など教育関係者が一堂に会し、有識者による講演、県内学校の実践報告等を共有し、これからの情報教育を考え、役立てる機会となることを目的とした。教育関係者180名が参加した。

日 時：令和元年8月5日(月) 9:30～15:30

会 場：J:COM ホルトホール大分 3階大会議室

実践発表：「主体的な学びに向けたタブレットの活用」

江藤 大介（大分県立大分豊府中学校 教諭）

「クラウドと生徒のスマートフォンを活用した授業実践」

佐藤 正男（大分県立情報科学高等学校 指導教諭）

子どもたちの発表：日本文理大学附属高等学校 eスポーツクラブ

講演1：「プログラミング教育と未来を考える」

利根川 裕太（特定非営利活動法人みんなのコード 代表理事）

講演2：「未来の教室での実証事業（三重県教育委員会との課題解決型学習）」

中里 忍（IGS株式会社 事業統括部 取締役）

講演3：「世界のどこまでも教育を受けられる環境を目指して」

荻野 次信（株式会社教育情報サービス 代表取締役）

5) 自主事業（研究調査事業）

事業の成果を基盤にしながら、今後の新たな事業展開を図るために、受託事業を進めながら、情報通信ネットワークシステムの顕著な発展に併せて、より幅広くかつより深い調査研究等を以下のとおり自主事業として実施するとともに、適宜、自主事業として研究発表した。

また、報告書を作成し、当研究所の研究成果や活動内容の広報を行った。

- ・2019年度研究報告書の発行
- ・情報モラル・セキュリティに関する調査研究
- ・教育情報化に関する研究
- ・地域オープンデータに関する研究
- ・地域産学連携人材育成研究
- ・地域におけるAIテクノロジーの普及に関する研修
- ・地域交通と地方創生研究

3-4 収：収益事業

1) ソーシャル・イノベーションの普及が企業・産業・社会構造に与える影響についての調査研究委託業務（企業からの委託事業）

例年「イノベーション」を中心テーマに進めてきた同調査研究は、「ソーシャルファブ、オープン・イノベーション」、「ソーシャル・イノベーション」、「サービス・イノベーション」と、少しずつ視点を変えつつ、主な対象地域としては、米国では西海岸・シリコンバレー、ラスベガスでのCESなどを、欧州ではパリ・フランスおよびバルセロナなど欧米側の最新動向に焦点を置いた。アジア諸国の動向も毎回取り上げてきたが、これまでは深セン・中国や香港など、東アジアの動向が主だった。しかし、今回は大きく視点を変え、アジアでもとくに東南アジア諸国のイノベーション動向を主対象と

した。その要因は、2015年ぐらいから ASEAN 諸国におけるテクノロジー・イノベーションへの取り組みが充実・発展してきたのではないかというものであった。その背景には、ファブラボやメイカースペースなどに代表される「デジタルものづくり」がグローバルに展開するなかで、東南アジアや南アジア諸国できわめて活発な取り組みが進められている状況を、FAN (FabLab Asia Network) の会議などを通して体感したことが大きな要因である。これにより、世界市場の新たな流れ、日本発情報通信ビジネスの発展につながる新たなイノベーションの可能性、連携について解明した。

実施スケジュール：令和元年 10-12 月

- ・仮説の検討
- ・文献、オンライン調査による資料の収集・分析

令和 2 年 1 月

- ・東南アジア出張 面談調査
- ・シンガポール、タイ、ベトナム
- ・文献、オンライン調査で資料収集・分析

令和 2 年 2 月-3 月

- ・文献、オンライン調査で資料の収集・分析
- ・報告書作成、報告会、納品

2) ネクストモビリティ EXPO2019 業務 (企業委託事業)

当研究所はハイパーネットワーク別府湾会議 2015 でソーシャル・モビリティの取り組みをはじめ、昨年は「小さい交通」を考えるハイパーネットワークワークショップ 2019 「地域社会を元気にするネクストモビリティ」を姫島で開催するなど、モビリティに関するイベントを続けてきている。今年度は、Maas や自動運転で地域の移動の課題を解決できるか、高齢者の事故を減らせるか、「小さい交通」を社会にどう実装するかといったテーマで、昨年に続きネクストモビリティ EXPO2019in 京都を開催し、地域社会が本当に求めるモビリティや小さい乗り物の可能性、近年注目されている Maas (Mobility-as-a-Service) や自動運転などをテーマにセッションを開催した。

日 時：令和元年 10 月 3 日～10 月 4 日

会 場：けいはんなオープンイノベーションセンター

概 要

10 月 3 日

【セッション 1】地域社会が本当に求めるモビリティとは

<小さい交通>のコンセプトの確認、大都市・地方中小都市・過疎地などの事例報告、速度制限と道路空間の再設計を中心とするパネル討論を通して、個々の地域特性に最適なモビリティのあり方、その実現に必要な要素を提示します。

基調報告：<小さい交通>の実績と課題：各地の事例報告 (各 20 分)

- ・離島・過疎地でのモビリティの持続可能性
寺下 満 (姫島エコツーリズム推進協議会)
- ・富山モビリティ改革 成功の理由
森口 将之 (モビリティジャーナリスト)
- ・横浜市での住民の取り組み
小池 由美 (横浜市青葉区民会議)
- ・北九州/福岡の実績 駐輪場から小型 EV まで
植木 和宏 (NPO 法人アイディオ)

コメントパネル討論

地域社会に最適の〈小さい交通〉：利用者の観点から速度制限と道路空間を考える。

- ・多様な移動手段が共存できる道路空間
大野 秀敏（アプルデザインワークショップ）
- ・スロー&ソフトモビリティ
小栗 幸夫（千葉商科大学名誉教授）
- ・浜松の地域産業と〈小さい交通〉への期待
谷川 憲司（静岡文化芸術大学）
- ・大都市圏都心部での歩行者の居場所
森田 伸子（編集者）

全体討論

10月4日

【セッション2】〈小さい乗り物〉の〈大きな可能性〉

〈小さい交通〉の構成要素としての〈小さい乗り物〉のデザイン論を中心に、高齢者や障がい者にとっての使いやすさ、開発者の現実、社会システムとして広く普及・発展するための必要要素、課題、展望を抽出します。

報告

- ・自分であらう見えること
倉本 義介（多摩ファビリティ研究所）
- ・「車いす補助車」という考え方
和知 徹（自転車活用推進研究会）
- ・台湾の小さい乗り物事情と台中旧市街での試み
蘇睿弼（台湾中城再生文化協會東海大学建築学科）
- ・高齢者に必要な機能／不要な機能：経験のデザインの立場から
原田 悦子（筑波大学人間系教授・
みんなの使いやすさラボ（みんなラボ）研究代表）

ワークショップ

【セッション3】モビリティのイノベーション：MaaS は日本に本当に定着するか？

自動運転で何が解決できるのか？

昨今注目されている MaaS (Mobility-as-a-Service) や自動運転技術は、地域社会が必要とする〈小さい交通〉の実現にどう貢献できるか。本当にユーザーの求める方向に向いているか、事業者・メーカー視線が強すぎないか。

地域の移動手段としての MaaS に自動運転はどんな役割を果たすのか？何が解決できるのか？各地の実証実験の事例を踏まえて考えます。

報告

- ・自治体から MaaS への期待 京丹後市の取り組み
野木 秀康（京丹後市網野市民局）
- ・地域の足としての MaaS
粕谷 朋未（神姫バス）
- ・MaaS の現在と未来
牧村 和彦（計量計画研究所・JCoMaaS 理事）
- ・地域に最適な自動運転とは 実証実験の現場から
小木津 武樹（群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター
副センター長）

【セッション4】地域が求める<小さい交通>実現のために
1～3までのセッションを総括して、今後の方向性を提案
全員討論

3) ビジネスデザイン発見&発表会 2019 大分開催業務（企業委託事業）

社会における課題解決、豊かな生活を実現するため、AI や IoT を活用したビジネスモデル、商品・サービス等を募集し、優秀なチームに、賞を授与した。大分大会では4チームが全国大会挑戦権を獲得し、さらなる審査を受け、そのうち2チームが、全国大会（日本ビジネスデザイン発見&発表会）の出場権を獲得した。（全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期となり 2021 年 10 月開催予定）

大分ビジネスデザイン発見&発表会

日 時：令和元年 11 月 30 日（土）12：00～17：30

会 場：大分県立芸術文化短期大学 人文棟 大講義室

参加人数：110 名

審査委員：

- ・青木栄二（公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 所長）
- ・安藤善之（大分県商工観光労働部 情報政策課長）
- ・林浩一（大分市企画部 情報政策課長）
- ・奥茂夫（別府市経済産業部 産業政策課長）
- ・中島誠（国立大学法人大分大学 理工学部 教授）
- ・綾部誠（公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 准教授）
- ・宮井智史（株式会社 ASO 代表取締役社長）
- ・豊住大輔（ファブラボ大分 マスター）
- ・帖佐真紀（合同会社 RSB 代表社員）
- ・江藤稔明（株式会社ザイナス 代表取締役社長）
- ・寺沢慶志（株式会社ミロク情報サービス 取締役常務執行役員）
- ・小川清（ICT ビジネス研究会 主査）

発表チーム：

【社会起業家部門 4 チーム】

- ・とりげーじ/TORIGAGE おおいた IT 人材塾 A チーム
- ・子育て支援情報アプリ【育児 Zip】/育児 Zip おおいた IT 人材塾 B チーム
- ・mago to/KABOSU おおいた IT 人材塾 C チーム
- ・Trash Kitchen/Nukumo

【キャンパス部門 9 チーム】

- ・ハッピーガードくん/大分梅子見守り隊 大分県立情報科学高等学校
- ・てんぺれちゃん/ChróZestó 大分国際情報高等学校
- ・アテネの道/凸×凹（デコ アンド ボコ） 大分国際情報高等学校
- ・Pop-up/Pop-up 大分国際情報高等学校
- ・Ambulance24~ConnectedRelief~/くらっしー 大分高等学校
- ・魔法の鏡/マジックマザー 大分高等学校
- ・CASTALK/うらいかセブン IVY 大分高度コンピュータ専門学校
- ・にゃんこれ/にゃんこれ 大分大学
- ・Enjoying Everywhere/Tuyoshi 大分大学

【ビジネス部門 3 チーム】

- ・まかせて安心（近隣の医療機関情報と周辺お店情報を同時提供する地図情報システム&配達サービスシステム） /code for iota
- ・Regional agriculture マッチングシステム（地域農業のマッチング支援）
code for iota
- ・あなたの好みにぴったりの飲食店が見つかるサービス「My コンシェル」
チーム マイコンシェル

講 演：「ビジネスと知的財産権」

公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 専任講師
知的財産支援室 次長（弁理士） 野田佳邦氏

パネルディスカッション：「大分ビジネス活性化」

【パネリスト】

- ・公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 准教授 綾部誠氏
- ・公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 専任講師
知的財産支援室 次長（弁理士） 野田佳邦氏
- ・株式会社ザイナス 代表取締役社長 江藤稔明氏
- ・ファブラボ大分 マスター 豊住大輔氏
- ・大分国際情報高等学校 3年 大谷直樹氏
- ・大分高等学校 1年 森本藍鈴氏

【コーディネータ】

- ・高木麻也子氏

4) 企業等に対する情報化支援等業務（企業委託事業）

企業等に対する各種研修の支援を行い、情報モラルや情報セキュリティの向上に寄与した。

○情報モラルおよび情報セキュリティ各種支援業務

- ・大分銀行、私学教育研修会等